



季節のエッセー



「ウメバチソウ」

(イネ科)

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

この花が咲き始めるのは、高原に本格的な秋が訪れるころ。ウメバチソウの一度めの花が散り、二度めが咲いて、また散って、三度めが咲くころ、高原に秋の霜が降るといふ。そのため、遠野ではこの花を「シモフリバナ」と呼んでいる。そろそろ枯れ色を帯びてきた草の間から、水の滴を散らしたように白い花が顔をのぞかせている。その様子を眺めていて、ふと気がつくといつの間にか吐く息まで白くなっていった。冷気の中で、ウメバチソウの花はいよいよ白く、冴えわたって見える。それはすでに、花と言うよりは霜か氷、あるいは雪の輝きである。ウメバチソウを「梅の形をした鉢」に見たてたのは、何と冬の厳しさを知らぬ人であることが。

参考資料: 澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社発行)より

特集 県内JA農機中堅職員とクボタの共同企画『アグリニック』開催

農機事業部

純情産地発 クララーラ **KLARA** vol.820 2017.11

みんなの力で! **がんばろう!岩手 純情産地いわて**

タイトルのKlara (クララーラ) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

contents

季節のエッセー いわての野草	02	みのもんた	06
特集		みんなの分教場	07
県内JA農機中堅職員とクボタの共同企画『アグリニック』開催	03	報告! 出向く活動班	08
消費地だより	06	のん活動記	09
		純情人	09
		ニュースワイドアングル	10



真剣に討議するプロジェクトメンバー



1.はじめに

全農農業機械事業として、「人づくり」・「仕組みづくり」・「結果づくり」という新3づくり運動を展開しています。この内容を凝縮した取り組みとして、クボタグループと共同したなかで、県内JA農機中堅職員でプロジェクトを組成して『JA&クボタ アグリピック in 岩手 2017』を企画しました。

アグリピックとはJAグループとクボタグループの共同開催の実演試乗会であり、全国各地で開催されており、しかし、イベント企画段階からJA職員が参加しているのは岩手県だけであり、岩手県では、この取り組みは昨年に引き続き2回目となります。

今回は、全国唯一の取り組み内容と県内JA農機中堅職員による成果物である『JA&クボタ アグリピック in 岩手 2017』の概要をご紹介します。

2.目的

目的1…人づくり
JA農機中堅職員の企画提案力向上を目的として、プロジェクトを組成しての企画提案

目的2…仕組みづくり
イベントを推進の山場とした推進年間サイクルの構築と、農家が学び体感できるイベント仕組みの構築。

目的3…結果づくり
適期納品を目的として、早期受注を推進。

JA&クボタ in 岩手 2017 アグリピック
次世代農業への挑戦！ 拓け！日本農業の未来を

ご来場のみならずにもれなく2ウェイバックプレゼント！
ご試乗いただいた方 機種ごとに記念品をプレゼント！
ご来場のみならずにもれなくお弁当・お茶をご用意

開催期間…2日間(11月22日(水)～23日(木))
開催テーマ…次世代農業への挑戦！拓け！日本農業の未来を

イベント内容…「聴く」「乗る」「見る」「学ぶ」「楽しむ」の5つのカテゴリーで体感していただく。

For Earth, For Life Kubota
JA&クボタ in 岩手 2017 アグリピック
次世代農業への挑戦！ 拓け！日本農業の未来を

ご招待状
ご来場のみならずにもれなくお弁当・お茶をご用意

11月22日(水)・23日(木)
10:00～15:00
会場 岩手産業文化センター「アビオ」
〒020-0605 岩手県滝沢市砂山389-20

秋晴の候、組合員の皆様におかれましてはますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。
さて、JAいわてグループはクボタグループと共に農業生産を担う皆様の営農と生活を支援させていただきます。農・業・地・域を元気にすることに取組んでいます。
このたび、平成29年11月に東北最大級のイベント会場岩手産業文化センター「アビオ」(特設会場にて)JA&クボタ アグリピックin岩手2017を開催させていただきます。
当日は「次世代農業への挑戦(拓け)日本農業の未来を」というテーマのもとに今年話題のM7トラクタの体感走行や無人走行トラクタ・ドローンを中心としたICT搭載最新機種の実演紹介、GPS搭載機の試乗など皆様の御覧をお祈りするための企画を各コーナーにてJA&クボタの協力を挙げて実施いたします。さらに皆様とのふれあいの場となる多様なアトラクションイベントも用意いたしました。
ぜひ、お誘い合わせのうえご来場いただきますようお願い申し上げます。皆様のご来場をグループ一円心よりお待ちしております。

平成29年9月吉日
主催：JAいわてグループ・クボタアグリサービス株式会社

4.企画概要

開催期間…2日間(11月22日(水)～23日(木))
開催テーマ…次世代農業への挑戦！拓け！日本農業の未来を

イベント内容…「聴く」「乗る」「見る」「学ぶ」「楽しむ」の5つのカテゴリーで体感していただく。

「聴く」…講演会「密播苗移植による提案」

「乗る」…170馬力トラクタ・直進キープ田植機の試乗

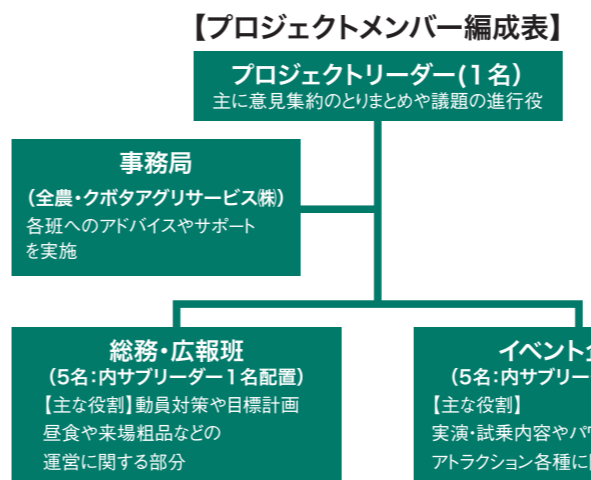
「見る」…自動運転トラクタ・ドローン

「学ぶ」…セルフメンテナンス

「楽しむ」…アトラクションイベント「ボルト締めタイムトライアル」「コンバイン風船割り」

5.おわりに

JAいわてグループ農機事業では、組合員に対する企画提案力の向上に努め、農業経営に効果的な農業機械やICT関連機器をより分かり易く説明・体感していただくことにより、組合員の納得いく機械導入に貢献していきます。



3.プロジェクトチーム活動経緯

(1)プロジェクトチーム発足
平成29年5月29日に県内JA職員11名により、プロジェクトチームが発足しました。チームはプロジェクトリーダーのもと、2つの課題別プロジェクト班を設置した体制となりました。

(2)第1回プロジェクトにて開催場所をアビオに決定
第1回目のプロジェクト会議は、プロジェクト設置目的や過去のイベント開催の経緯などを確認し目的意識の共有化をはかりました。また、さつそく第1回目において、開催場所と開催時期を決定しました。



(3)栃木県本部のイベント視察し、第2回プロジェクトで課題協議本格稼働
第2回目のプロジェクトは、平成29年7月23日に全農栃木県本部のパワフルアグリフェア会場で開催しました。他県の良い所を吸収するとともに、イベント企画内容を確定していきましました。また、栃木県内にあるクボタ宇都宮工場も見学し取引先メーカーの理解を深めました。

(4)現地確認でレイアウト変更をくり返し最終決定
第3回目は、平成29年10月26日にイベント会場となるアビオの会議室で開催しました。現地でレイアウトと細部の確認作業を実施しました。

課題別プロジェクト班の総務・広報班は、動員対策や目標計画・昼食などのお客様サービス内容などをまとめ、イベント企画班は実演・試乗内容や講演会内容とアトラクションなどをまとめました。

第3回目は、平成29年10月26日にイベント会場となるアビオの会議室で開催しました。現地でレイアウトと細部の確認作業を実施しました。

クボタ宇都宮工場
栃木県本部 展示会場 (みすほの自然の森公園)

純情ブランド消費地の「今」をレポートします。 消費地販売部 発 消費地だより

第15回岩手県農協肉牛枝肉研究会

9月29日、東京食肉市場において、第15回岩手県農協肉牛枝肉研究会が開催されました。この研究会は、「いわて牛」の銘柄確立及び肉用牛の肥育技術の確立を図るため、生産者並びに購買者との相互理解を深め、肉質の向上及び経営意欲の高揚を図ることを目的とし、11頭、去勢25頭、計36頭の出品で開催されました。最優秀賞は岩手ふるさと農協の渡辺悟さんが受賞され、3,333円/kg(488kg)の単価がつけました。

また、前日には市場関係・購買者・生産者約50名が集まり購買者懇談会が開催され、大いに盛り上がりしました。研究会は体型、造りが良い牛も多く、生産者の方々の日々の努力が形となって現れた結果となり、高値で取引をして



セリ風景



みんなで声掛け
"ワッショイ"

第15回岩手県農協肉牛枝肉研究会成績表

販売成績	頭数	平均枝肉重量	平均販売単価	平均販売金額
雌	11頭	446kg	2,672円	1,189,835円
去	25頭	532kg	2,561円	1,362,337円
合計	36頭	506kg	2,595円	1,309,628円

入賞区分	農協名	氏名	性別	枝肉重量	単価	販売金額
最優秀賞	岩手ふるさと	渡辺 悟	雌	488kg	3,333円	1,626,504円
優秀賞	いわて花巻	株式会社開発農産	去勢	524kg	3,025円	1,585,100円
優秀賞	いわて平泉	高泉 茂美	去勢	558kg	2,884円	1,609,272円
優良賞	いわて平泉	千葉 慶喜	去勢	519kg	3,102円	1,609,938円
優良賞	新いわて	武田 敏男	雌	446kg	2,881円	1,284,926円
優良賞	いわて花巻	杉沢 健友	去勢	564kg	2,871円	1,619,244円

いただきました。当日はいわて純情むすめも応援に駆け付けセリに花を添えてもらいました。市場購買者の方々には「いわて牛」を精一杯応援していただいております。首都圏にも「いわて牛」のファンが沢山いらっしゃいます。畜産情勢は非常に厳しい中ですが、「純情産地いわて」として安全・安心かつ美味しい「いわて牛」をお客様に届けるため、生産者と消費者の懸け橋として日々取り組んで参ります。



消費地販売課
高橋 司

みんなの分教場

野菜安定生産のために ～ほ場の排水対策～



園芸部 生産販売課
技術主管
菊池利行



写真1 湿害を受けただいこん
転作田ではないが、排水不良のため、地際から地下部が腐敗している



写真2 転作田での収穫期のたまねぎ
湿害と雑草害で小玉になっている



写真3 転作田でのキャベツ栽培
やや高うねとし、排水を図っている

増加する大型露地野菜生産
近年、土地利用型大型園芸農家だけでなく、水田作を中心とした集落営農組織でも、「加工・業務用」として野菜を付する経営体が増加しています。キャベツやたまねぎ栽培などでは1ヘクタールを超える集落営農組織も出てきました。しかし、県内野菜の栽培状況を見ると、碎土が不十分なことによる活着不良のほか、長雨や台風・ゲリラ豪雨などによるほ場滞水と湿害、高温乾燥期の石灰欠乏による果菜類の「尻腐れ果」やキャベツなど葉茎菜類の「縁腐れ症」の発生など安定生産のための課題が多く存在しています。

ほ場の排水対策
野菜作付にあたっては、まず排水良好なほ場を選ぶことが前提となります。その上でほ場排水対策を行うことになりませんが、主なものとしては①排水溝の設置、②高うね栽培、③耕盤・心土破碎、④暗渠の施工等があります。しかし、これらの対策もすべてのほ場

露地野菜所得向上のために
生活スタイルの変化に伴い、野菜需要のうち「加工・業務用」が約6割を占めるようになりました。これらの需要に対応するためには、生産コストの低下を図るとともに収量の確保と実需者への安定的な供給が収益につながります。ほ場の排水対策はその第一歩となります。(写真3)
生産のための基盤を安定させ、より高収益を目指しましょう。

今年の梅雨入りは平年より17日遅い7

月1日でしたが、梅雨明けに関しては平成21年以来的の特定されない年になりました。

このような気候の中で本年7月の盛岡の降水量は下旬の大雨により平年比185%の334mmとなっています。

このため、県内では中南部を中心とした転作田だけでなく、県北の畑作地帯でも排水不良による湿害が大きな問題となりました。(写真1・2)

報告!



出向く
活動班



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
加澤 直志

TAC活動の
報告です

今回は、JAいわてグループ農業担い手サポートセンター(以後、サポートセンターとする)の取り組みと、JAいわて中央及びJAいわて花巻でのTAC活動について報告いたします。

【担い手訪問】

今年度についても、JAの出向く担い手を明確にするため、営農・金融部門共通の担い手リストを作成し、訪問活動を実施しております。その中で、私が担当しているJA TACとの同行先は、JAいわて中央が13件、JAいわて花巻が36件となっております。



担い手訪問



産直の紹介



TACミーティング

【産直の紹介】

訪問先である「農事組合法人さらき」は、北上更木地域での春オープンした「さらきの里ふれあいセンター」に事務所を構え、商品を販売しています。この産直は、米・野菜・花苗・手作り菓子や地元産の米で造ったお酒など食料品を扱っています。また、食堂では更木桑茶を入れたそば、ソフトクリームや岩手県内産の食材を使ったメニューを用意しております。お近くまで来た際は是非ご利用いただければと思います。

【若手・女性農業者育成対策に係る研修会】

サポートセンターでは、今年度新たな取り組みとして、「若手・女性農業者育成対策に係る研修会」を開催しておりますが、第2回目の研修会を9月12日・13日に実施しました。



若手・女性研修会(JA新いわて会場)



若手・女性研修会(JA江刺会場)



TACアグリビジネススクール

サポートセンターは「就農者支援対策事業実施要領」において、JAと一体となって経営拡大・地域農業の活性化をはかる意志を持って、新たに就農後継する担い手および若手女性農業者の活動を応援・助成することで、「純情産地いわて」の生産基盤の維持・拡充に資することとしております。

今回の研修ではJA新いわて、JA江刺の会場に43名の若手・女性農業者とJA職員が集まり、サポートセンターは岩手県農業の概要とJAグループの自己改革の取り組み、全農における自己改革の取り組み、および全農いわての自己改革に基づく施策について説明を行いました。JAグループの自己改革に関する参加者の関心は高く、具体的な施策について熱心に耳を傾け学習しました。

【TACミーティング】

JAいわて中央では、毎週火曜日にTAC管理若手および相談員(TAC)4名でTACミーティングを行っており、私も可能な時は参加させていただいております。内容は、巡回で得た情報の報告や対応状況の共有を行っております。

また、他部署との情報共有と課題解決を目的に、部門間連携会議を隔月で開催し、金融部門も参加し情報交換を行っております。

【担い手支援アドバイザー検討会】

JAいわて花巻では、担い手支援アドバイザー



担い手支援アドバイザー検討会

(TAC)が9名おり、事業部署や金融部門を参集し、年に3回検討会を開催しています。9月に2回目の検討会が開催され、担い手支援アドバイザーより上期活動の実績と下期の活動計画を報告、また、各事業部署から情報提供が行われました。

【TACアグリビジネススクール】

個々のTACのレベルアップと指導力を高めるために、全農が主催するTV研修が年に10回開催されており、今年度は肥料・農業知識の習得や農業ICT等の学習会を開催しております。

以上、サポートセンターの取り組みと、JAいわて中央及びJAいわて花巻でのTAC活動を紹介させて頂きましたが、JAいわてグループ農業担い手サポートセンターの取り組みが、JAいわて中央とJAいわて花巻の担い手支援を通じて、今後とも農家組合員の所得増大・農業生産の拡大につながるようサポートして参ります。



稲を束ねるのんさん(花巻市圃場で)



10月1日(日)、純情産地いわて宣伝本部長を務めるのんさんが、花巻市・紫波町・雫石町にある3圃場で、稲刈りを体験しました。のんさんが刈った品種は、県オリジナル水稲品種「銀河のしずく」。昨年度全国デビューし、今年で本格栽培の2年目を迎えます。のんさんは、JA全農いわてが放映している「宇宙最強

米への道」をテーマにした「銀河のしずく」のPRCMにも出演。「銀河のしずく」を全国へ発信しています。花巻開催では、のんさんは、農事組合法人ななべくらの藤井智利さんの圃場で、5月下旬の田植えに引き続き、稲刈りを体験。鎌で1株ずつ丁寧に刈り取っていきまし。藤井さんから、出来栄え100点をもらったのんさん。稲刈りは小学生以来だというのんさんは、「久しぶりの稲刈りでしたが、手際よく刈ることができて嬉しいです。楽し

かったです。」と話しました。手刈りの後には、稲を束ねる作業やコンバインでの稲刈りを体験。稲刈り終了後には、「銀河のしずく」の新米のおにぎりを味わいました。のんさんは、「ホカホカご飯にして、美味しく食べてほしいです。甘味があり、おかずがいらないくらい美味しいです。」と消費者に向けてPRしました。



コンバインでの稲刈り体験(雫石町圃場で)

純情産地いわて宣伝本部長「のん」稲刈りを体験 10月1日(日)

純情産地いわて宣伝本部長「のん」さん 稲刈りイベント

米への道」をテーマにした「銀河のしずく」のPRCMにも出演。「銀河のしずく」を全国へ発信しています。花巻開催では、のんさんは、農事組合法人ななべくらの藤井智利さんの圃場で、5月下旬の田植えに引き続き、稲刈りを体験。鎌で1株ずつ丁寧に刈り取っていきまし。藤井さんから、出来栄え100点をもらったのんさん。稲刈りは小学生以来だというのんさんは、「久しぶりの稲刈りでしたが、手際よく刈ることができて嬉しいです。楽し



のんさんと集合写真(紫波町圃場で)

JA全農いわての **純情人** (じゅんじょうびと)

趣味・特技
睡眠、ドライブ、散歩、のんびり

現在の担当業務
ET・採卵補助業務、改良センター妊娠鑑定・繁殖検診、農家巡回

これからどんな職員になってみたいか
農家さんと共に成長し、岩手のそして日本の畜産酪農を支えられる職員になりたいです。

その他アピールしたいこと
引退後は、牛と馬を飼いたいです。

畜産酪農部 生産指導課
はぶかわ かよ
土生川 佳世さん

県オリジナル水稻品種「金色の風」・「銀河のしずく」を試食販売

10月13日(金)

新米試食販売会

JA全農いわては、岩手県産業会館1階純情ステーションで、「新米試食販売会」を開催しました。県オリジナル水稻品種「金色の風」のデビューに伴い、県産米の認知度向上が目的。「金色の風」と「銀河のしずく」の新米を、消費者の皆様にご提供しました。

試食をしたお客様は、2つの品種を食べ比べてみて、「『金色の風』は甘味が強くモチモチしていて、『銀河のしずく』はさっぱりとした味わいで美味しい。」とその食感や味の違いに驚いた様子でした。

平成29年産の販売は、「金色の風」は500トン、「銀河のしずく」は5,000トン計画。「銀河のしずく」は前年の5.6倍の販売を見込みます(前年:880トン)。県内外ともに、消費者の皆様への浸透をねらい、PR活動に力を入れていきます。

「金色の風」・「銀河のしずく」の新米を、消費者の皆様を試食いただきました



茶美豚の源、飼料用米を稲刈り

10月17日(火)

「茶美豚飼料用米稲刈り・産地視察研修会」

神奈川・静岡・山梨を中心に店舗を展開している、「生活協同組合ユーコープ」は、10月17日(火)、JAいわて花巻・株式会社アドバンス(飼料用米生産者)とともに、「茶美豚飼料用米稲刈り・産地視察研修会」を行いました。茶美豚とは、ユーコープが鹿児島・岩手・茨城の農場を産地・飼料指定し、その指定農場の生産者が大切に育てた豚のことです。今回は、5月の田植え体験に引き続き、その豚に給餌する飼料用米の稲刈り体験や茶美豚生産農場の見学、豚肉加工施設の視察等を行いました。

JAいわて花巻営農推進部米穀販売課の畠山英剛課長の指導の下、15名のユーコープ職員が花巻市湯口の圃場で、手刈り・コンバインでの収穫を体験しました。手刈りは初めてだという方もいましたが、手際よくあっという間に作業が終了しました。コンバインは、一人ずつ実際に運転を体験。和気あいあいと作業が進みました。



自分たちで刈り取った稲を持って記念撮影



日増しに秋も深まり、草木は紅葉をむかえました。赤、黄色と彩り鮮やかで、思わず目を奪われます。皆様、食欲の秋を楽しんでおられますか。私は、箸が止まりません。先月本格デビューした県オリジナル水稻品種「金色の風」をスーパーで購入し、食べてみましたが、

モチモチ感に衝撃を受けました。口いっぱい甘味が広がり、おかずがいらないくらい美味しいですね。「銀河のしずく」も「ひとめぼれ」も食べましたが、それぞれの味・食感の違いに驚きです。皆様も、ぜひ食べ比べしてみてください。(佐藤)

「いわて純情米」県北広域集出荷センター「結」稼働開始!

9月20日(水)

「いわて純情米」県北広域集出荷センター「結」竣工式

JA全農いわては、9月20日(水)に、滝沢市に建設していた「いわて純情米」県北広域集出荷センター(愛称:結(ゆい))の竣工式を開催しました。標準収容力1万2950トンの低温倉庫で、全国トップクラスの規模です。9月中旬から稼働しています。

「結」は、県北地区における「いわて純情米」の集荷・販売の拠点となります。稲作農家の大規模化が進み、フレコン導入が広がる中、稲作農家の直接持ち込みにも対応するなど、流通の効率化によりコスト削減に貢献します。全量をフレコン保管した場合でも、約1万トン収容でき、センター内には専用の検査場と屋内にトラックの積み込み場所を備えます。また、低温倉庫を活用し、安定した品質の米を、実需者へ通年供給することができます。

本会の畠山俊彰本部長は、「農村社会の助け合いの精神の『結』から名前を取りました。農家とJAグループ、流通業者がタッグを組み、全国の消費者においしいお米を届けたいです。」と話しました。



低温倉庫で全国トップクラスの規模「結」

紅いわて初競売

9月21日(木)

平成29年度りんご「紅いわて」トップセールス

JA全農いわては、9月21日(木)に盛岡市中央卸売市場で、平成29年度りんご「紅いわて」トップセールスを開催しました。「紅いわて」は、県オリジナル品種であり、平成20年より本格的な植栽が始まりました。濃い紅色の外観と、酸味が少なく、甘味の強い食味が特徴。同じ県オリジナル品種の極早生りんご「紅ロマン」とともに「紅いろシリーズ」として、全国へPRしています。また、本県産りんごの主力である「つがる」と「ジョナゴールド」の間を繋ぐ品種として、産地の期待も高いです。

21日は今年初の競売が実施され、特秀の1箱28玉入が8万円で競り落とされました。同市場では、過去最高価格。消費地である関東・関西の人気が高く、生産量が追いついていない状況ですが、生産量

は年々増加しています。今年は前年比140%の140tを見込み、今後さらには生産量を増やしていきます。

本会の畠山俊彰本部長は、「年々生産量が增大しており、消費地の評価も高いです。生産者・JAと一体になって、生産拡大をねらいたいです。」と話しました。

同日大阪市中央卸売市場で行われたトップセールスでは、特秀の1箱28玉入が15万円で競り落とされました。



紅いわてをPRする畠山本部長

稲の成長を感じながら収穫体験

10月13日(金)

盛岡市立渋民小学校5年生稲刈り体験イベント

JA全農いわては、10月13日(金)に、盛岡市渋民の圃場で、渋民小学校5年生を対象とした稲刈り体験イベントを開催しました。この活動は、JA全農いわてとJA新いわて、イオンスーパーセンター株式会社が共催し、今年で10年目を向かえます。

参加した児童は、5月に同圃場で、田植えを体験しています。5か月かけて大きくなった稲を見て、稲の成長を感じていました。一株ずつ、昔ながらの手刈りを体験。そして、刈り取った稲を藁で結ぶ作業を行いました。なかなか難しく、生産者の方に教えてもらいながら稲の束を作っていました。作業終了の合図があってもなお、夢中になって作業を続ける児童もあり、楽しみながら体験していました。天日干しをするために、はせ掛けも自分たちで行い、最後にはコンバインでの

収穫を見学しました。

児童が収穫したお米は、今後、イオンスーパーセンター渋民店で、子供たちの手によって体験販売されます。



生産者の方に教えてもらいながら作業を行う児童

青森県 岩手県 秋田県 北東北JA-SS



JA全農北東北石油事業所管内 (青森岩手秋田) 合同開催

あったか灯油 キャンペーン



キャンペーン期間 2017年 10/1日～12/31日

JA-SSの灯油お買い上げで総計924名様に当たる!

JA-SS賞

24名様
(各県8名様)

¥5,000 JCB GIFT CARD

見本

JCB
ギフトカード
3万円分

のんちゃん賞

青森・岩手・秋田の名産品

900名様
(各県300名様)

青森 青天の霹靂 5kg

秋田 佐藤養助商店 稲庭干温 6人前

岩手 いわちく 味工芸ハム詰合せ

キャンペーン期間中に、下記①～③のいずれかを満たしたお客様に応募はがきを進呈いたします。

- ① 灯油を100ℓ以上ご購入された方
- ② 灯油定期配達をお申し込みされた方 (一部実施していないSSを除く)
- ③ ホームタンクをご購入された方

応募はがきに必要事項をご記入の上、いずれかをお選びください

切手を貼り
ご郵送

JA配達員へ
手渡し

キャンペーン実施の
JA-SSへ
ご持参

応募締切日
2018年
1月5日(金)
当日消印有効

【ご注意ください】●お一人様何口でもご応募いただけますが、応募はがき1枚につき1口のご応募となります。●一部キャンペーンに参加していないSSがございます。ご利用の際は事前にご確認ください。●お客様の住所や移転先が不明等で賞品がお届けできない場合は当選は無効とさせていただきます。●賞品について諸事情によりお届けできない場合は、予告なしに代替品をお届けさせていただく場合がございます。●当選の権利は譲渡できませんのであらかじめご了承ください。

※お預かりした個人情報は、本キャンペーン事務局にて適切に管理し、抽選・賞品発送・当選確認で利用するほか、マーケティング等の目的で、個人を特定しない統計情報の形で利用させていただきます。また、ご本人の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。

JA SS 青森県JA-SS運営協議会
いわてJA-SSチェーン
秋田県JA-SS連絡会



<http://www.zennoh.or.jp/ja-ss/>



私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

■ 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。

■ 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。

■ 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

私たち全農グループは、**生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋**になります。

